

○計画期間：平成30年4月～令和5年3月（5年0月）

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和元年度終了時点（令和2年3月31日時点）の中心市街地の概況

平成20年に策定した第1期計画では、計画推進中に発生したリーマンショックによる景気後退によって、大型店の売上や宿泊施設の利用者数が減少するなどの影響を受け、目標指標で掲げた歩行者通行量等は未達成となった。

それらを改善するべく平成25年に策定した第2期計画では、商業施設、高齢者福祉施設、住宅棟の3棟からなる「豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業」等を基幹事業に実施してきた。平成29年に再開発ビル「KITARA」が完成し、昭和60年からの豊田市駅周辺の再開発構想も完成を迎えた。また、計画で掲げた目標指標は、先述の住宅棟の入居が始まったことにより、全て達成することができた。

平成30年度からの第3期計画では、第2期計画までの課題であった昼間のにぎわいづくりと、再開発により整備された都市機能を最大限に活かした「公民連携によるまちづくり」を目指して、官民合計37事業に取り組んでいる。

計画2年目となる令和元年度は、ラグビーワールドカップ2019™開催に合わせて実施した海外及び市外からの来訪者へのおもてなし環境整備により中心市街地の来訪者は増加している。また、市民団体等が公共的空間を利用する取組である「あそべるとよたプロジェクト」の件数も増加しており、広場活用も徐々に根付いてきている。

その一方で、「あそべるとよたプロジェクト」利用者の固定化が課題であるため、新規利用者獲得につながる仕組みの検討が必要である。

また、新型コロナウイルス感染症拡大が2月頃から目標指標の数値に影響を及ぼしている。今後、商店街及び大型商業施設をはじめ、まちなかの商業機能の停滞等により、各指標数値の大幅な減少が懸念される。

そのため、商業機能の停滞防止及びまちなかのにぎわいを取り戻す仕組みの検討を進めていく。なお、事業の方針を見直すことも視野に入れることが必要である。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

（基準日：毎年度1月1日）

（中心市街地 区域）	平成29年度 （計画前年度）	平成30年度 （1年目）	令和元年度 （2年目）	令和2年度 （3年目）	令和3年度 （4年目）	令和4年度 （5年目）
人口	13,284人	13,425人	13,273人			
人口増減数	257人	141人	▲152人			
自然増減数	103人	52人	▲37人			
社会増減数	154人	89人	▲115人			
転入者数	1,003人	996人	877人			

2. 令和元年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

まちなかの公共空地活用事業については定着し賑わいをみせている。特にラグビーワールドカップ2019™開催時の駐車場線等活用では今までの活動の成果が目に見えるかたちとなった。3期計画の目標指標である歩行者通行量等も着実な事業遂行をみせており、商業活動が活発であったと評価する。中活計画・エリアマネジメントの推進組織である一般社団法人TCCMが主体となり、「まちなか案内事業」による駅前インフォメーションセンター「THE CONTAINER N6」、おもてなし施設である「レストえきまえ」の運営、また「公共的空間活用等研究事業」、「まちなかにぎわい・回遊性向上事業」による公共空地を活用した事業の展開など様々な事業をリンクさせ相対的な効果を生んでいる。コロナウイルス感染症の影響により、今後の中心市街地のありかたについて問われるなか、中心市街地活性化協議会と都心環境計画推進会議など様々な組織と連携し、新しい生活様式に対応した中心市街地の活性化及びエリアマネジメントの推進が図られることを期待する。

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況	前回の見通し	今回の見通し
まちなかにぎわい創出	歩行者通行量（昼間9～17時）	31,507人 （H28）	32,584人 （R4）	32,407人 （R1）	B	①	①
	フリーパーキング対象駐車場の総利用時間	601万台時間 （H28）	700万台時間 （R4）	612万台時間 （R1）	B	①	①
公民連携による活性化	公共的空間の利用率	27.2% （H28）	36.5% （R4）	27.7% （R1）	B	③	③

<基準値からの改善状況>

A：目標達成、B：基準値達成、C：基準値未達成

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者通行量（昼間9時～17時）」については、まちなかでの各種イベント等の開催及び情報発信、時間消費型施設のシネマコンプレックス（以下、シネコンという。）をはじめとした施設への来訪者により、通行量が増加している。

「フリーパーキング対象駐車場の総利用時間」については、コロナウイルス感染症拡大の影響により駐車台数が大幅に減少したことから、前回フォローアップよりも減少したが、ラグビーワールドカップ 2019™ 開催に合わせた環境整備により、自動車での来訪者が増加傾向にある。

「公共的空間の利用率」については、市民団体等が公共的空間を利用する取組である「あそべるとよたプロジェクト」の利用数は伸びているが、目標達成に向けては、さらに利用団体や利用時間の拡大等を検討していく必要がある。

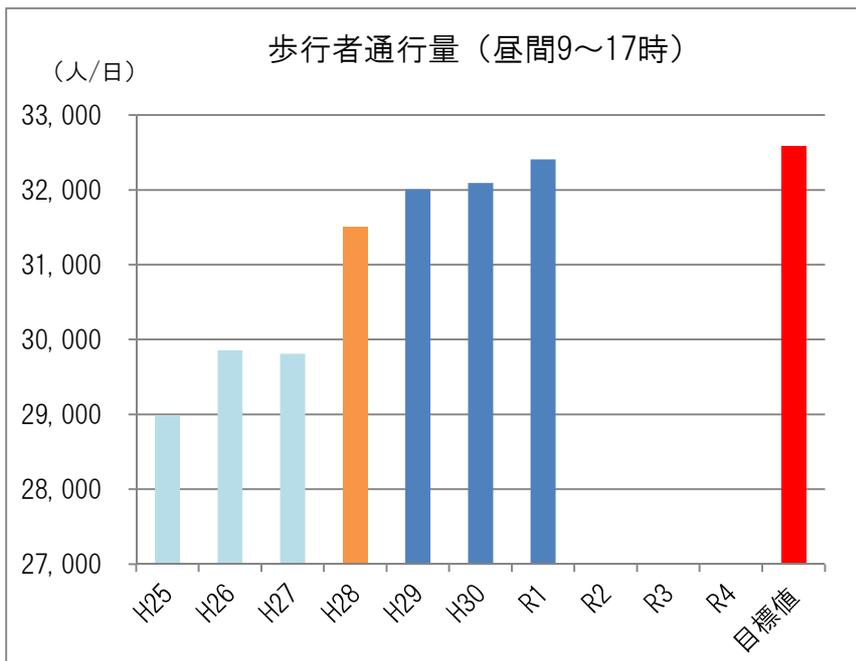
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

「歩行者通行量（昼間9時～17時）」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 62～P. 68 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人/日
H28	(基準年値) 31,507
H30	32,094
R1	32,407
R2	
R3	
R4	
	(目標値) 32,584

※調査方法： 豊田市中心市街地歩行者自動計測装置による測定（13地点）

※調査月： 1年を通して（9時から17時）

※調査主体： 豊田市

※調査対象： 歩行者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業

(実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合)

事業実施期間	平成 23 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	県道豊田市駅前停車場線の北側において、商業施設、高齢者福祉施設及び住居棟の整備を行う市街地再開発事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） 平成 23 年度～平成 30 年度
事業効果及び進捗状況	・平成 29 年 11 月に商業棟が完成。その後、残りの 2 棟も完成した。 平成 30 年度は事業区域内の既存建築物の撤去等を行い、平成 31 年 1 月で再開発組合は解散した。 ・完成後の効果として、ビル全体で年間約 25 万人の集客があり、居住人口も増加したことにより、豊田市駅の東側の歩行者通行量は基準値と比較して 10%の増加となった。また、新たな飲食店の開業により回遊性も生まれている。
事業の今後について	平成 30 年度にて事業完了。今後は施設の適切な運営と集客に向けた取組を実施していく。

②. まちなかにぎわい・回遊性向上事業（実施主体：一般社団法人 TCCM）

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	地域事業者、公共施設、メディア関係者等で構成する「中心市街地まちなか宣伝会議」が情報発信、集客イベント等を合同で実施するものであり、まちの賑わい創出及び商業活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	・J リーグ及びラグビートップリーグの試合、美術館の企画展にてまちなか店舗が連携した回遊性向上事業。J リーグの各試合に約 40～50 店舗が参加。ラグビートップリーグ 1 試合開催で 42 店舗参加。美術館の企画展 53 日間、42 店舗参加。 ・シネコンでの鑑賞者とまちなか店舗との連携で回遊性向上を図る事業にて 30 店舗が参加。 ・ラグビーワールドカップ 2019™開催による集客をまちなかに取り込むため、商業ビルの広場を活用したビアガーデンを開催。8 日間開催し、3,000 人/日が来場。 その他音楽イベント、シネコン上映作品と連動した回遊イベントを開催。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、特に令和 2 年度上半期集客イベントの開催が難しいため、令和 2 年度計画を見直し、特に情報発信・まちなか WEB の再構築、前年度に引き続き直接的に経済的効果が表れる事業を検討実施。

③. 新豊田駅東口駅前広場整備事業（実施主体：豊田市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 6 年度【実施中】
事業概要	新豊田駅東側の駅前広場を一般車、バス、タクシーなどの交通処理施設及び多様な利活用を可能とする広場としての再整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（豊田都心地区）） （国土交通省） 平成 30 年度
事業効果及び進捗状況	市民や広場利用者とのワークショップや実験を重ね、それらを反映したりリニューアル工事を実施し、令和元年度より運用開始。
事業の今後について	利用者目線に立った使いやすい広場としての運用方法を検討しながら、広場づかいによる新たな楽しみ方の提供、新たな利用者の発掘を目指し、事業完了に向けて進めていく。

④. 駐車場利便性向上事業（実施主体：豊田まちづくり(株)、豊田市）

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	中心市街地駐車場の再整備、フリーパーキング駐車場の誘導方法及びシステムの見直しを実施。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	ラグビーワールドカップ2019™の開催までに駐車場の環境整備事業を完了させたことにより駐車場の受け入れ環境が整ったため、自動車での来訪者が増加傾向となった。
事業の今後について	駐車場の利用増加を目指し、引き続き利便性の高い駐車場に向けてシステム改変等を検討する。

⑤. 公共空間等整備事業（実施主体：豊田市）

事業実施期間	平成 27 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	大型商業施設におけるトイレ等の公共的空間の改修や整備に対する支援
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	本事業にて公共的空間を整備することにより、来訪者のおもてなし環境が向上され、まちなかのにぎわい創出に寄与する。
事業の今後について	引き続き、来訪者にとって快適な空間に向けた整備を実施し、また訪れたいまちとなるよう、おもてなし環境の向上を目指していく。

⑥. 公共的空間活用等研究事業

(実施主体：中心市街地活性化協議会、一般社団法人 T C C M)

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	公共的空間の活用に関する検討及び社会実験の実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none">・都市公園を活用した「STREET&PARK MARKET」を毎月開催し、約 50～90 店舗の出店、3,000 人/回の集客があった。また、再開発ビルのアトリウムにおいても、マーケットのほかにカフェ事業も実施している。・都市再生推進法人として駅前の県道停車場線を道路占用の特例により、ラグビーワールドカップ 2019™開催と連動した「ToyotaStreet Market」、地元 Jリーグクラブチームとの防災イベント、JA 共催の軽トラ市を道路空間の活用として開催した。・豊田市駅西口の広場において、インフォメーションとカフェ機能を併設した「THE CONTAINER N6」の運営を実施、ラグビーワールドカップ 2019™の観戦客をターゲットにしたカフェ、BEER スタンドを展開した。
事業の今後について	・引き続き、従来の取組を進めることで、恒常的に広場活用できる仕組みを検討する。令和 2 年度は、歩道空間を活用し、日常的な開催をめざす「ToyotaStreetMarket」に取り組む予定。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。

令和元年度に実施した豊田市駅東側ペDESTリアンデッキの延伸により、再開発ビル間の回遊がスムーズになった。

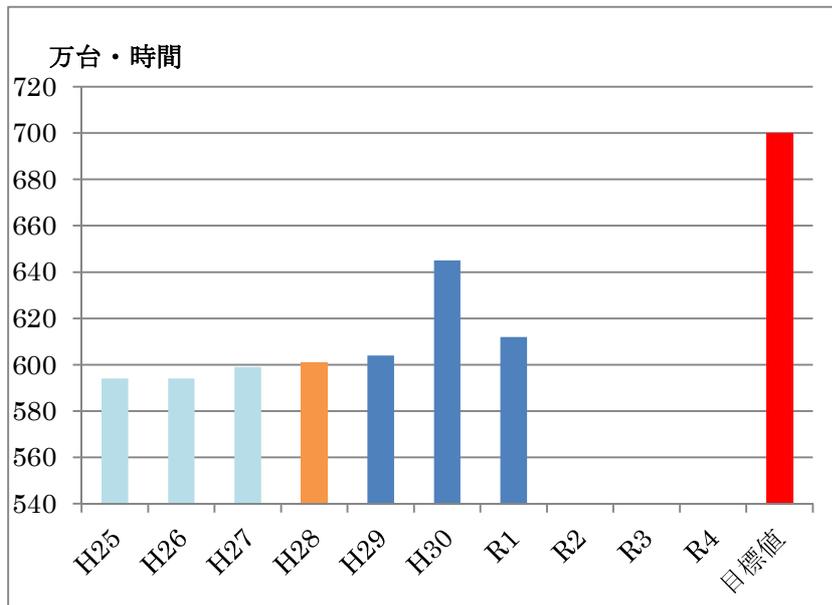
また、延伸したペDESTリアンデッキに歩行者通行量の計測地点から人が流れているが、全体の数値が前年度比増であることから、まちなかのにぎわい及び回遊性が順調に向上していると言える。

ただし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により歩行者通行量の減少が懸念されるため、終息後のまちなかのにぎわい及び回遊性の創出の仕組みづくりを検討していくことが必要である。

「フリーパーキング対象駐車場の総利用時間」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 69～P. 73 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 万台・時間
H28	(基準年値) 601
H30	645
R1	612
R2	
R3	
R4	
	(目標値) 700

※調査方法： 3時間駐車無料サービス（フリーパーキング）のデータを使用

※調査月： 3月末

※調査主体： 豊田まちづくり(株)

※調査対象： フリーパーキング対象駐車場（合計 17 駐車場）

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 豊田市駅前通り北地区第一種市街地再開発事業

（実施主体：豊田市駅前通り北地区市街地再開発組合）

事業実施期間	平成 23 年度～平成 30 年度【済】
事業概要	県道豊田市駅前停車場線の北側において、商業施設、高齢者福祉施設及び住居棟の整備を行う市街地再開発事業を実施する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省） 平成 23 年度～平成 30 年度
事業効果及び進捗状況	・平成 29 年 11 月に商業棟が完成。その後、残りの 2 棟も完成した。 平成 30 年度は事業区域内の既存建築物の撤去等を行い、平成 31 年 1 月で再開発組合は解散した。 ・完成後の効果として、ビル全体で年間約 25 万人の集客があった。特にシネコン利用による駐車場の利用は、平成 30 年度は 8 万台であり、利用台数の増加につながっている。
事業の今後について	平成 30 年度にて事業完了。今後は施設の適切な運営と集客に向けた取組を実施していく。

②. 駐車場利便性向上事業（実施主体：豊田まちづくり(株)、豊田市）

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	中心市街地駐車場の再整備、フリーパーキング駐車場の誘導方法及びシステムの見直しを実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズな入出庫が可能となる車番認証システムや、事前に空き台数を知らせる場外誘導設備の導入などを実施し、豊田市都心駐車場整備計画に基づく重点事業は実施完了した。 ・SNS を活用し、駐車場環境や駐車場混雑時の状況をタイムリーに情報発信することで利用促進を図った。 ・まちなかへの滞在時間の増加と回遊性向上を目的としたフリーパーキングプラスの利用促進を行い、利用者は平成 30 年度 16,089 件から令和元年度 18,035 件と増加した。ただし、新型コロナウイルスの影響により年度末の利用者が大幅に減少した。 ・フリーパーキング対象 17 駐車場の総利用台数は、前年度比 100%前後で推移していたが、新型コロナウイルスの影響により最終的に前年度比 96.2%となった。
事業の今後について	利用者にとってより利便性の高い駐車場を目指し、利用者アンケート等に基づいた、駐車場環境の整備、運営面の改善、システム等の改善を検討していく。また、整備の優先順位が低かった利用者が少ない駐車場について、今後の方針を検討していく。

③. 新豊田駅東口駅前広場整備事業（実施主体：豊田市）

事業実施期間	平成 29 年度～令和 6 年度【実施中】
事業概要	新豊田駅東側の駅前広場を一般車、バス、タクシーなどの交通処理施設及び多様な利活用を可能とする広場としての再整備を行う。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（豊田都心地区）） （国土交通省） 平成 30 年度
事業効果及び進捗状況	市民や広場利用者とのワークショップや実験を重ね、それらを反映したりリニューアル工事を実施し、令和元年度より運用開始。
事業の今後について	利用者目線に立った使いやすい広場としての運用方法を検討しながら、広場づかいによる新たな楽しみ方の提供、新たな利用者の発掘を目指し、事業完了に向けて進めていく。

④. まちなかにぎわい・回遊性向上事業（実施主体：一般社団法人 T C C M）

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	地域商業者、公共施設、メディア関係者等で構成する「中心市街地まちなか宣伝会議」が情報発信、集客イベント等を合同で実施する

	ものであり、まちの賑わい創出及び商業活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・Jリーグ及びラグビートップリーグの試合、美術館の企画展にてまちなか店舗が連携した回遊性向上事業。Jリーグの各試合に約40～50店舗が参加。ラグビートップリーグ1試合開催で42店舗参加。美術館の企画展53日間、42店舗参加。 ・シネコンでの鑑賞者とまちなか店舗との連携で回遊性向上を図る事業にて30店舗が参加。 ・ラグビーワールドカップ2019™開催による集客をまちなかに取り込むため、商業ビルの広場を活用したビアガーデンを開催。8日間開催し、3,000人/日が来場。 その他音楽イベント、シネコン上映作品と連動した回遊イベントを開催。
事業の今後について	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、特に令和2年度上半期集客イベントの開催が難しいため、令和2年度計画を見直し、特に情報発信・まちなかWEBの再構築、前年度に引き続き直接的に経済的効果が表れる事業を検討実施。

⑤. 公共空間等整備事業（実施主体：豊田市）

事業実施期間	平成27年度～令和4年度【実施中】
事業概要	大型商業施設におけるトイレ等の公共的空間の改修や整備に対する支援
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	本事業にて公共的空間を整備することにより、来訪者のおもてなし環境が向上され、まちなかのにぎわい創出に寄与する。
事業の今後について	引き続き、来訪者にとって快適な空間に向けた整備を実施し、また訪れたいまちとなるよう、おもてなし環境の向上を目指していく。

⑥. 公共的空間活用等研究事業

（実施主体：中心市街地活性化協議会、一般社団法人TCCM）

事業実施期間	平成25年度～令和4年度【実施中】
事業概要	公共的空間の活用に関する検討及び社会実験の実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	・都市公園を活用した「STREET & PARK MARKET」を毎月開催し、約50～90店舗の出店、3,000人/回の集客があった。また、再開発ビ

	<p>ルのアトリウムにおいても、マーケットのほかにカフェ事業も実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市再生推進法人として駅前の県道停車場線を道路占用の特例により、ラグビーワールドカップ2019™開催と連動した「ToyotaStreet Market」、地元Jリーグクラブチームとの防災イベント、JA共催の軽トラ市を道路空間の活用として開催した。 ・豊田市駅西口の広場において、インフォメーションとカフェ機能を併設した「THE CONTAINER N6」の運営を実施、ラグビーワールドカップ2019™の観戦客をターゲットにしたカフェ、BEERスタンドを展開した。
事業の今後について	<p>引き続き事業を継続しながら、実施主体の組織強化を目指していく。公共的空間の使い方の研究や新たなまちづくりの担い手の発掘を進め、日常的な広場の活用実績を増やしていく。</p>

●目標達成の見通し及び今後の対策

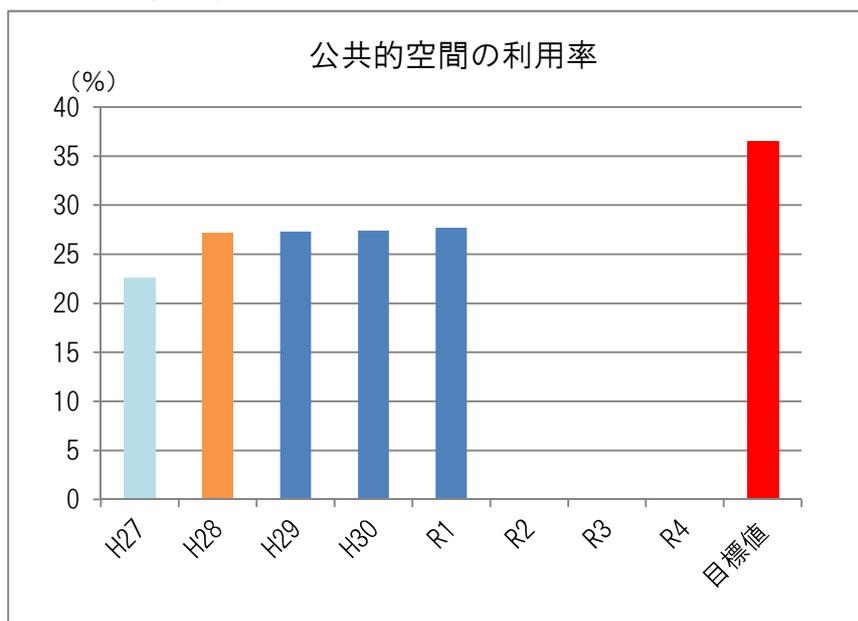
主要事業は概ね順調に進捗しているため、目標達成は可能だと思われる。

ラグビーワールドカップ 2019™開催に合わせた都心駐車場の環境整備事業の実施により、まちなか来訪者の受け入れ環境が整ったため駐車場利用者は増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により駐車台数が大幅に減少した。また、まちなかの平均滞在時間（1台あたりの駐車時間）前年度比約1分減少した。

今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の終息後に来街者が再び駐車場を利用する仕組みの検討が必要である。また、駐車場の利用方法の周知拡大及び回遊性向上策などにより、まちなかの滞在時間増加の仕組みづくりも進めていく予定である。

「公共的空間の利用率」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 74～P. 75 参照

●調査結果の推移



年	(単位) %
H28	(基準年値) 27.2
H30	27.4
R1	27.7
R2	
R3	
R4	
	(目標値) 36.5

※調査方法：公共的空間の使用申請記録による

※調査月：1年間を通じて

※調査主体：豊田市

※調査対象：シティプラザ、ペDESTリアンデッキ広場、豊田市駅西口デッキ下、ギャザ南広場、参合館前広場、コモ・スクエアイベント広場の6箇所

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

- ①. エリアマネジメント推進組織（(一社) TCCM）によるまちづくり及びプロモーション事業
 (実施主体：一般社団法人 TCCM)

事業実施期間	平成 28 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	法人格を持ったまちづくり組織が事業収益を得て、新たなまちづくり事業に還元していくことによって、持続的な活性化事業の展開を進めるもの
国の支援措置名及び支援期間	地域・まちなか活性化・魅力創出支援事業費補助金（中心市街地活性化支援事業）のうち調査事業、専門人材活用支援事業（経済産業省） 令和元年度～令和 4 年度
事業効果及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくり事業」として、道路、公園、広場等公共空間を活用したマーケットの開催やカフェの運営を実施。また市民等が空間を自由に利用できる「あそべるとよた」を官民で推進している。 ・「プロモーション事業」として、まちなかの集客や魅力を発信する「まちなか宣伝会議」の運営を行っている。 ・平成 30 年度からエリアマネジメントの仕組みづくりを目的に、豊田市エリアマネジメント研究会を立ち上げ、駅周辺の再開発会社、鉄道事業者等ステークホルダーを巻き込んで、まちの将来像・推進体制等を議論、共有した。

事業の今後について	引き続き事業を継続しながら、実施主体の組織強化を目指していく。今後は、中心市街地の魅力発信の強化と、新たなまちづくりの担い手の発掘を進め、広場利用者の増加を目指す。 ステークホルダー自らが豊田市駅周辺の価値・魅力向上をめざす、エリアマネジメントビジョンを作成し、事業を推進する。
-----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

②. 公共的空間活用等研究事業

(実施主体：中心市街地活性化協議会、一般社団法人 T C C M)

事業実施期間	平成 25 年度～令和 4 年度【実施中】
事業概要	公共的空間の活用に関する検討及び社会実験の実施
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業効果及び進捗状況	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園を活用した「STREET & PARK MARKET」を毎月開催し、約 50～90 店舗の出店、3,000 人/回の集客があった。また、再開発ビルのアトリウムにおいても、マーケットのほかにカフェ事業も実施している。 ・都市再生推進法人として駅前の県道停車場線を道路占用の特例により、ラグビーワールドカップ 2019™開催と連動した「Toyota Street Market」、地元 J リーグクラブチームとの防災イベント、JA 共催の軽トラ市を道路空間の活用として開催した。 ・豊田市駅西口の広場において、インフォメーションとカフェ機能を併設した「THE CONTAINER N6」の運営を実施、ラグビーワールドカップ 2019™の観戦客をターゲットにしたカフェ、BEER スタンドを展開した。
事業の今後について	引き続き事業を継続しながら、実施主体の組織強化を目指していく。公共的空間の使い方の研究や新たなまちづくりの担い手の発掘を進め、日常的な広場の活用実績を増やしていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しているが、基準値との比較で 0.5%の増加であり、目標達成に向けては、事業の実施方法を抜本的に見直すなどの対策も必要である。

令和元年度には、「あそべるフレッシュャーズ」及び「あそべるナイト」など、新規利用者獲得を目的とした事業も実施したが、結果は予想を下回った。

今後は、実施主体である（一社）T C C Mの組織力の強化を図りながら、「あそべるとよたプロジェクト」の認知度を高めるための広報活動等を行っていく。また、利用者の固定化が課題であるため、新規利用者獲得につながる仕組みの検討を引き続き進めていく。